

■部会名：高齢化・市民活動部会

■部会長（有識者委員）：佐藤克之委員

■市民委員：景山奨委員、岸本佳廣委員、小島忍委員、佐々木愛委員、佐藤幸子委員
高橋正生委員

■意見の概要

【高齢者福祉】

- 単身高齢者の集まり、助け合える場づくりは、独居、孤独死などの問題があるので早く取り組んだ方がよい。
- 公園に来る高齢者は元気な方なので、公共施設のバリアフリー化より個人住宅のバリアフリー化の方が先ではないか。公共施設をするのであれば、独居老人の居住環境や困っていることなどを調査し、行動への助成や応援が先ではないか。
- 買い物難民の救済策として、ミニスーパーや巡回バスがあるが、採算の問題が度外視で提案されている。民間の大きなスーパーは頭打ちになっているので、どこも小さくて効率よく売れるやり方を考えてはいる。中期的には出てきそうだ。
- 豊幌はスーパー側の企業努力で幌向のスーパーのバスが来ており、だいぶ定着している。
- 買い物用の巡回バスの運行に特養や老健のデイサービス用バスを使ってはどうか。昼間は、ほとんど動いていないので、それを利用しない手はない。運転手の問題は市が助成するなどしてはどうか。大きなバスではないので、そんなにコストがかからずできる気がする。場所によっては病院・市立病院や商店街と繋ぐなどを考えてみるのもおもしろい。
- 学校の空き教室を利用して、高齢者への学校給食を提供し、子供たちと一緒に食べることができれば、新しい何かが生まれてくると思う。そこにデイサービスの送迎バスを絡めれば、配達の問題も解決できる。モデル地区を決めて、軌道に乗れば市全体に広げていくということもいいのではないか。
- 空き教室は、危機対策の備品の集積と高齢者の集う場所に絶対いい。
- 65歳前後の高齢者で、元気な人に運転手を委託すれば、働ける場づくりにもなる。
- 市立病院への通院補助。うまく利用すると買い物に行く人も便利になる。
- 自治会の活動は大事である。独居老人が増えて、自治会費を毎月集金に行くのが大変であるが、安否確認という意味合いもある。カーテンが1日空いていないと連絡が入ったりする。そういうところを見てくれることは重要。
- 愛のふれあい交流事業はいい制度だが、肝心な人がでてこない。集まりにでてきて人間関係ができればお互い支えあえるので、パークゴルフやゲートボール、畑づくりなど何か興味を持つようなことで出てくるように促さないとならない。

【医療】

- 市立病院の売却は、市の財務状況が、人口が減って維持できなくなった時に改めて考えていけばよいと思う。札幌の近郊で、本当に市立病院がなかったらやっていけないのか。
- 優秀な医者の確保というのであれば、例えば、大学の募集時に必ず何人かは北海道に

残るという義務を入学する条件にしてはどうか。経営として考えてほしい。

- 恵庭病院は、膝や腰に優秀な医者が出て江別や札幌から患者が来ている。そういった先生が来れば、病院が立ち直るきっかけになる。
- 有力な民間企業グループに買ってもらおうと優秀な医者が集まる。
- 市立病院という性格から言えば、赤字でもいいのではないかと。開業医ができないコストが掛かるようなことは、公的な部分が補うということがあってもいいのではないかと。長期的には人が減って、負担が増えるのは、なるべく避けるべきなので民間に売却ということになるかもしれないが、民間に売った時に、市内の開業医にない診療科目もなくなるというのは不安である。
- 市立病院があるということが、人口の定着や江別に対する期待感に大いに貢献しているのではないかと。
- 医療費や介護保険費を抑えるのであれば、もっと予防に力を入れるべき。自助努力も必要だが、広報活動や健康診断への助成を手厚くするなどしてはどうか。また、個人情報との関係もあるが、IDカードでお薬手帳や毎年の健康データの管理をすると災害などで書類がなくなった場合もスムーズに対応ができる。そういうことを市で請け負ってほしい。
- 早期発見、早期治療のために検診の充実をするべきである。認知症検査も受診しやすいようにし、町内みんなが受診する環境を整えば医療費の軽減にも繋がると思う。そうすれば財政的に余裕ができ、ハードなものや優秀な医師を呼ぶこともできるのではないかと。

【市民活動】

- 中学生や高校生の体育部員に除雪のボランティアをしてもらう。
- 豊幌は、元気な高齢者が登下校の見守りを毎日してくれる。子どもの顔と名前を憶えてくれると親も影響されて、顔と名前を憶える。また、生活科の授業で畑づくりや草履づくりなどに来てくれるなど、だんだん繋がっていく。小さいコミュニティでないとなかなか難しいかもしれない。
- 自治会の役員に報酬を出したらいいのではないかと。自治会は余裕がなく、自己負担で行っている。自治会費を上げるか市が助成したらいいのではないかと。こういう時代だからこそ、こういう人たちの役割は大きい。
- 働ける高齢者はたくさんいる。みんな人の役に立つことをしたいが、きっかけがない。
- 豊幌小学校は、1年生の授業で先生が自治会長さんを紹介してくれる。子どもからそういう話を聞くと親も親しみが沸く。

【次回の検討】

- ・分け方として、医療、介護、元気なお年寄り、コミュニティづくりの関連のもの、障がい者とかの方がわかりやすいと思う。ハード・ソフトというとなかりづらい。
- ・ジャンルを分けた後で、動かした方がなんとなく見えてくるような気がする。
- ・その方が関連性もでてくると思う。
- ・市民活動や高齢者の問題はハードが少ない。今から手を付けて徐々にやっていかななくてはならないものがある。
- ・全体的に見ると、福祉や高齢者、障がい者の問題を人の手で支えていくみたいなイメージかと思う。人がコミュニティで一生懸命支えていくという図なのかと思う。
- ・医療制度や介護制度で、うまく補えていない部分、問題点を人・コミュニティでシステム化みたいなものを探していく。
- ・きっかけとか横の繋がりをどうやって、ここの意見で提案できるのかという感じなのかと思う。

■部会名：暮らし・定住部会

■部会長（有識者委員）：千里政文委員

■市民委員：大作美佳委員、神 千加委員、諏訪部容子委員、富沢裕司委員、水野 功委員

■意見の概要

【若い人の定着】

- 江別には農業があるのだから、角山にいっぱいある土地を活用して、若い人がどんどん就農できるような（学生がどんどんアルバイトできるような）就農施設等の何か大型の施設（年間を通して野菜を作れるような施設）を造れないか。
- 学生がなかなか江別市内で働くような場所がない。
- 婚活イベントとして、まちコンを実施してはどうか。

【医療】

- 豊幌には、歯科医しかない。他の医療機関は遠くに行かなければならない。「往診診療の実施（豊幌）」は、すぐにできるかといふとなかなか難しいのではないか。
- 病院は、自分に合った医者が必要であり、遠くへ通うこともある。

【施設】

- 「空き教室の有効活用」については、施設を管理する側として、地域住民に対して自由に使えるようにするためには、玄関を別にするなどの整備が必要になってしまう。
- 「空き教室の有効活用」については、どういう目的に空き教室を使うのかがはっきりしないとマトリックスのどの枠の中に入れるか決められない。
- 「発信源に情報図書館の活用」とあるが、悪い意味ではなく普通の図書館だが、「情報」とはどういうことを想定しているのか。
- 特殊な学校をつくって、そこを卒業後に江別に就職してもらうのはどうか。

【情報発信】

- 「老朽化した小中学校の耐震化、または建て替え」について、どこが古くて、どういふ対応をしたらよいかの情報発信（情報を知ること）がまず必要である。
- 今すぐにできそうな情報発信は、やる気になればすぐにでも取り組めるはずである。
- ブランドイメージづくりや色々なピーアール、イベントというのは、すぐにできるものだけれども、長期的・継続的に実施する必要がある。
- いろいろな大きな大会や全国大会が江別で行われているのに、情報が発信されていないために、それが観に行けないという話がある。
- スポーツ活動において、江別で頑張っているところもあるが、新聞や広報を見た後になってから分かるので、もっと早めにピーアールしてはどうか。
- 予防接種の通知は、個別対応しているはずである。
- 行政からかなり情報発信しているはずなので、情報に本当に困っている人がいるのだろうか。自分から情報を取りにいかなければならない状況なのだろうか。

- 「消防のレスキューマンによるPR」は、消防の仕事が忙しい中、対応可能であろうか。
- 防火管理者講習会の情報発信の仕方がまずい。一般の人に対しては情報が回らない。消防の予防課に言ったら分かるはず。
- バスの外装で何か情報発信することはできるのではないか。

[全体]

- ソフトとハードの境目が不明な意見がある。
- 大麻地区対策は、大きすぎてなかなかよく分からない。住み始めた時は、空き家が多かった。大麻中町が、一番空き家が多い。道営住宅もエレベーターがないため、高齢者が住みやすいかというところではない。

《次回までの調査》

- もし、海外の都市と姉妹都市の提携を結ぶのであれば、経費はどれぐらいかかるのか。コストが低いのであれば、当たり前じゃないことをやってみても良いのではないか。いっぱい提携することで話題づくりになるのではないか。

■部会名：環境・文化部会

■部会長（有識者委員）：押谷 一委員

■市民委員：草野靖広委員、齊藤良枝委員、内藤祐貴委員、中野和代委員、
野戸谷睦委員、山田明美委員

■意見の概要

[環境：住環境]

○ 住宅街がどんどん拡張されている最中である。住宅街は区画間に余裕がなく、住宅が密集して建ち並んでいる状態。個人所有地ではなく、市有地として多目的なスペースが区画間に点在していると、子供たちも遊ぶことができ、景観的にも良くなると思う。それが、必ずしも公園という整備の仕方でもなくともよく、散策広場のようなものでも良いと思う。

また、札幌との比較になってしまうが、江別の良さは、土地の広さにゆとりがあることだと思うので、上記のようなスペースがあれば江別らしさも向上する。

○ 以前と住宅事情が変化し、急に子供が増えた地域では、公園周辺の子供たちが非常に危ない。周辺住民も住宅事情の変化を把握しきれてないので、あらためて近隣住民への注意喚起が必要ではないか。

[文化：文化イベント]

○ PMFの誘致ができれば、プロの技術に触れることができる。ただ、演奏を聴くということだけではなく、学生が技術指導も受けられれば、技術面のレベルアップとなり、ひいては指導者のレベルアップへと繋がる。

○ 現状で、PMFを誘致する施設がないのであれば、指導者のみを呼んで技術指導をしてもらうことからスタートし、段階的に誘致活動を広げていければ良い。

[文化：指導者]

○ 江別には既に吹奏楽の分野では優秀な指導者がいるので、現状で必要なものは、指導者ではなく、新しい楽器である。楽器の性能差は大きく演奏に影響し、お金が無くて他校と戦えないのが実情である。行政のバックアップがあれば、大きく飛躍する可能性は大きい。

[スポーツ：方向性]

○ 高齢者がスポーツを楽しむことによって健康増進につながり、ひいては高齢者医療費の削減に繋がるのではないか。

[スポーツ：イベント]

○ ご当地マラソンは、運動公園内や原始林内のクローズドコースであれば車両の規制もいらないので、実現可能ではないか。

○ 運動公園は道立であるが、もっと市と情報共有をはかり活用の道を広げる方必要があ

る。

- 全道、全国大会が開催できる施設やそれに付随した宿泊施設があれば、大会を誘致することが可能となり、スポーツに強いまち江別となっていけるのではないか。
- プロスポーツの試合を見たり、強化合宿を見たりする機会があれば、スポーツを始めるきっかけづくりとなるのではないか。また、技術的指導も受けることができれば、レベルの底上げができるのではないか。

[税収：ふるさと納税]

- 大泉洋さんやノーベル賞受賞者の鈴木さんなど、江別出身の著名な方がいるのだから、市側からふるさと納税について要請してみてもどうか？納税してもらえれば、江別と繋がっている感じがより強まるのではないか。

[その他：江別の良い所を探そう]

- 既に江別では、いい取り組みや、優良な商品がたくさんあるが、自分達がそれに気付いていない。もっと、身近な良い所を見つけて、市内そして市外へPRしていく事が必要である。

[その他：やきもの市を盛り立てる]

- セラミックアートセンターをもっと有効活用し、PRした方がよい。やきもの市とコラボレーションした活用方法も検討の余地がある。

[その他の意見]

- これまでの総合計画には、全ての市民の要望が網羅的に全て入っている。全方位的に少しずつでもやっていくというやり方も一つではあるが、江別の独自性を出すのであれば、力を注入するところの重点化が必要であり、スポーツや文化についても、まんべんなく振興していくのではなく、特化した分野を作る方がいいのではないか。

■部会名：安全・安心部会

■部会長（有識者委員）：佐々木貴子委員

■市民委員：石栗和典委員、梶井正夫委員、高橋美香委員、中村紘子委員、山崎悟委員

■意見の概要

[災害の危険度に応じてサイレンの鳴らし方を工夫]

- すぐに実現可能のように思う。ハードではないか。
- 市民に対して、どの音がどの危険度に対応しているかの周知が必要という側面からするとハードづくりではないか。

[マップに食料や毛布の備蓄状況を記載]

- すぐにできそう、短期でやってもらわなくては困るのではないか。
- 周知徹底ができていないのに、物が揃っていない、ということも困るのではないか。その意味では[備蓄資材の充実]の短中期と同じような位置づけではないか。
- 備蓄を地域に完全に任せるというやり方もあるのではないか。
- 格差が出てくるのでは？自治会からの突き上げがくるように思う。

[ハザードマップ関連]

- ハザードマップの情報を増やすことについては、危機対策担当部署に参加を願わなければ話が進まない。むしろ、安心・安全部会を進めるにあたり、危機対策担当部署を参加させる必要がある。
- 事故が多発するような場所を追記できないか。
- 小学校で小学生が危ないと感じた地域などを地図に書き込み、子ども目線の危険マップを作り、ハザードマップに記載できないか。
- ある程度必要な情報を抽出し、情報過多にならないようにしなければならない。
- 市民は備蓄資材が充実はしていないと感じている。
- マップそのものに存在感がない。
- マップ整備の充実が必要である。

[6丁目踏切あとのアンダーパスの防犯対策が必要]

- そもそもなぜアンダーパスなのか。
- 駅を経由すれば、線路の上を通れるのになぜ作るのか、無駄遣いではないか。
- 計画そのものを中止にできないのか、無理ならば、地下通路を明るく広く、防犯対策もしっかりとした工夫をしてほしい。

[一次救命の充実]

- 心臓マッサージを市民ができるようにするという意味ではハードづくりで、AEDの設置を充実させるという意味ではハードづくりになる。

[札幌の住宅街の置き雪対策を参考とした取り組み]

- 雪を捨てる場所がないために札幌は独自に対策を考案しているということだとすれば、そもそも江別には場所がたくさんあるので、必要ではないのではないか。

[冬に自転車に乗っている高齢者対策]

- 警察との連携が必要ではないか。

[高齢者が除雪している消火栓の対策]

- 消火栓の除雪は消防がすべき。
- 札幌では地域に助成金を出して、雪かきを任せている。（北郷町内会が除排雪マップを作っている。その事例を調べてほしい。）

[自転車対策（新規意見）]

- 大麻地区は大学生も多い地区ということもあり、自転車対策を先駆けてやることで、モデル地区として整備し、注目を集められないか。

[携帯等の不通に備えた掲示板などのアナログな通信手段の整備]

- 長沼町では町が整備した光ファイバーを利用したサービスが受けられるようになっているが、それを江別でも中長期のスパンで計画できないか。

[警察の対応について（新規意見）]

- 被害者の味方だと感じられない警察の対応が多い。市が被害者と警察との間に入ることで対応を変えられるのではないか。

[その他（新規意見）]

- 地震等に特化した議論をし過ぎていて、インフルエンザや竜巻などの議論もしなくてはいけないのではないか。

■部会名：まちづくり部会

■部会長（有識者委員）：隼田尚彦委員

■市民委員：笹原邦子委員、佐藤尚人委員、深谷亮一委員、山崎智行委員

■意見の概要

[まちづくり 市街地整備]

- 現状の施設の有効利用や転用により、高齢者と子どもと一緒に活動できる場を作ればよい。新しく施設を造ることだけではない。
- 市民会館は江別全体が一カ所にまとまる役割を果たすために建てられたのではないか。
- 一カ所にまとまるとは、行政機関が集約された方が良いという趣旨にもとれる。
- 行政サービスは反対に分散された方が良い。
- コミュニティとしてまとめられるという意味で議論すべきなのか。
- 豊幌地区の位置づけは3地区のニーズにあわせたまちづくりと同主旨と考えられる。

[まちづくり 大学連携]

- 学生が活用できるスペースの整備ということだけであれば、空き店舗を使うことで比較的短期にできそうだが、もっとじっくり考えた方が良い。
- 学生をもっとまちに向かせ、まちの人との接点を増やすことが重要。
- 学生の活動が地域にあまり知られていないことが課題。地域と活動している事例はいくつもある。
- 江別には学生が自由に発表できる場所がないので、学生は札幌に行ってストリートパフォーマンスをしたりしている。
- 地域側、学生側お互いの情報が不足している。
- 早稲田大学とは規模が違うので、単純に比較できないが、文京台には学生アパートがたくさんある。ただ、それだけでは足りなくもっと活気が必要なのかもしれない。
- 学生が楽しく過ごすためには、ハートづくりが重要になる。
- 長期的な視点が必要とも思うが、今いる学生のことを考えてすぐに取り組むべきこともある。

[まちづくり れんが活用]

- れんがの活用は中長期的に取り組むべき課題。
- 活用方法はいろいろ考えられるが、歩道に敷くのは避けるべき。

[中心市街地 JR 駅]

- 駅の改築等ハード整備は中長期の視点に立って、コミュニティスペースとしての機能や商業・福祉の機能も含めて総合的に取り組むべき。
- 高架下の利用や構内での物販等ソフトに係る取り組みは、交渉次第では短期に成果が出せるのではないか。
- 野幌駅高架下への飲食店（特に飲み屋）の誘致は客待ちのタクシーによる渋滞を引き起こし、バスや自家用車の通行の邪魔になる可能性が高い。少し歩けばすぐ繁華街なので、高架下に作る必要はない。

[中心市街地 JR 駅周辺]

- 特に江別駅周辺の整備が必要。
- 駅周辺の整備は総合的・複合的に行うべき課題。
- 駅周辺に企業誘致するのも、そこで働く人が飲食や買い物する場所を整備しないとうまくいかない。
- 駅周辺に住宅街を整備して新たに人を呼び込むことよりも、今住んでいる人が住み続けられる環境整備を優先すべき。
- 駅周辺に高齢者が住む施設や住宅を作るのは意味がある。
- 野幌駅周辺にこれ以上商業施設を誘致する必要はない。
- 帯広の駅前に屋台村があるように江別駅前にはやきものがあるというようにする。
- 農協（A コープ）が撤退することによる江別駅周辺の買い物難民対策は、すぐ取り組まなければならない。ハード・ソフトどちらの面からも。

[道路 幹線道路]

- 幹線道路の整備は充分されているし、冬期間はしょうがない部分もある。どこまで自然に逆らってお金を掛けるのか、費用対効果は期待できない。
- 白樺通と国道275号の連結は不要。
- 行政サービスは反対に分散された方が良い。
- 使わない道路は作らないというのは確かにそのとおり。

[道路 生活道路]

- 大麻地区から国道12号への連絡は確かに不便だが、道路整備は時間が掛かるので長期に取り組まなければならない。

[道路 サイクリングロード]

- 原始林周囲や鉄道林に散策路やサイクリングロードを整備することで、不法投棄の抑止にもなるし、人が集まるきっかけにもなる。

[公共交通 方向性]

- 自家用車を使わないノーカーデーをやってみれば、公共交通機関がどれだけ不十分なのか実感できる。

[公共交通 JR]

- 江別駅に特急が停まる必要性は低い。

[公共交通 バス]

- バスを利用したスタンプラリーはすぐにできるし、バス路線のありかたを考えることにつながる。そして、あり方を考えるところから始めることが大切。
- 函館で町内会が運営するコミュニティバスがある。参考にすればよい。
- 温泉施設や自動車学校、幼稚園の送迎バスなどは、空いている時間もあるはず。少しお金を払って乗せてもらってもいいのではないかな。

[公共交通 地下鉄等]

- 大麻までの地下鉄延伸やモノレールは実現の見込み薄い。
- レンタルサイクルやカーシェア等は自家用車を使わなくてもよいまちづくりにつながる。

■部会名：地域産業部会

■部会長（有識者委員）：河西邦人委員

■市民委員：相田晶子委員、島本和夫委員、志水有希委員、前後稔委員、寺岡秀一委員、寺田外治委員、峯田智也委員

■意見の概要

【雇用】

- 「27-A-③：子育て世代の人たちが短時間でも働ける場所が必要」について、野幌駅の高架下で考えると面白いかもしれない。駅の高架下をうまく改造して何かできないものか。市として野幌駅をどう活かしていくのか、担当職員から野幌の再開発にかかる駅周辺の整備の話を知りたい。

【大学連携】

- 野幌の商店街と大学が連携して地域ブランドをつくるというのが、経済産業省の商店街活性化のモデル事業に選ばれたので、大学と商業の連携というのはすぐに始まるのではないかと思う。野幌の再開発の話と関連して、担当職員の話を知りたい。

【農業】

- 農業の後継者対策については、高齢化が進んでいるので急いでやらなければならない。
- 「29-A-①：市が主体となった営農指導体制」とあるが、市がやらなくても農協など色々なところでやっているのではないか。市が他と一緒にやるのは良いと思うが、市だけでやる必要はないのでは。

【商店街】

- 「30-A-(4)：高齢化を見据えた徒歩でも買い物しやすい街」とあるが、コンパクトシティだと問題となるのは、すでに商店を営んでいる人など既得権を持った人たちの移動させることである。
- 乗り物（公共交通）をある程度循環させる必要がある。特に高齢になると買い物に出るにしても車の無い人が多い。

【情報発信】

- 河川防災ステーションから調査船弁天丸に乗れるといった情報があるが、市民にすら知られておらず、観光資源として使えていないのはもったいない。